

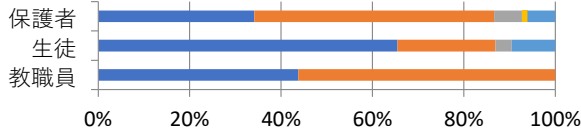
# 令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

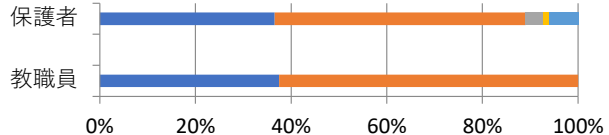
### 1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

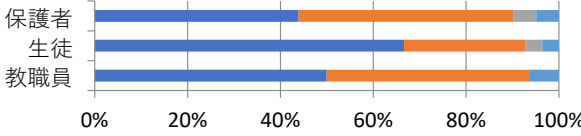


【考察】 本校の心の教育の推進については肯定的な評価が児童、保護者、教職員ともに約9割程度であり、一定の成果をあげているといえる。しかし、「どちらかというともう一つ」「わからない」と回答した児童、保護者がそれぞれ1割強だったことから、一人一人の子どもや子どもの気持ちをより大切にしたい指導や対応を心掛け、心を育む教育の充実になお一層励む必要がある。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

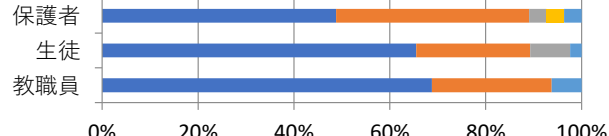
### 3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

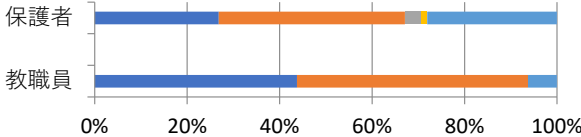


【考察】 「わかる授業、楽しい授業づくり」「タブレット活用」に関しては、児童、保護者、教職員ともに肯定的な評価が9割を超えている。理由としては、タブレットが一人一台に配付されてから児童、保護者、教職員のICTへの意識が向上したことに加え、児童、教職員がすべての教育活動において効果的な活用を工夫しながら進めていることが考えられる。

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

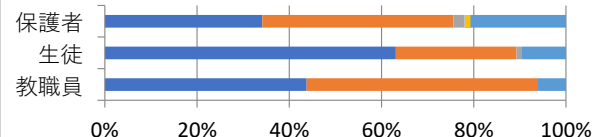
### 5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



### 6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



【考察】 学校の支援体制の在り方、交流・共同学習については、「わからない」と回答した保護者の割合が他項目より多い。校内だけでなく外部関係機関による支援の活用や、交流学級との活動や盲学校や特別支援学校との居住地交流学习等のさらなる充実を図るとともに、保護者への啓発やお知らせをするなどの手立てが必要であると考えられる。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>【考察】 安全教育については、3者ともに肯定的評価の割合が高い。本校では登校の見守りや巡回パトロール等地域や保護者が安全教育について大変協力的である。しかし家庭や地域との連携や協力の項目の回答においては、職員と保護者と意識に少し差があるため、保護者の気持ちに寄り添い、保護者に納得していただく細やかな対応を行ってきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

9 つつましき花	10 ゆたかなる花
子どもは、自ら伸びようとする心で進んで学ぶことができていると思いますか。	子どもは、思いやる心で気持ちのよいあいさつができていますか。
<p>【考察】 「進んで学ぶこと」に関しては全体的に高い評価ではあるが、教職員に比べて児童、保護者の評価がやや低い。自ら学ぶ意欲を高めるために、今後も多様な学習形態の活用や、家庭学習の工夫改善を行うことで更なる向上が期待できる。挨拶に関する項目に対しては、児童と保護者は進んであいさつをしているという意識が高いが、教職員は十分であるとは考えていない。相手に伝わるあいさつについて考えさせ、自分を振り返り改善点に気付かせていく必要がある。</p>	

⑤ 本校の教育

11 たくましき花	
子どもは、強い心で仕事やそうじ、行事等をやり通すことができていると思いますか。	
<p>【考察】 学校行事等への参加については、児童、保護者ともに肯定的な評価が9割程度を占めている。コロナ禍で様々な活動に制限がある中、本校の伝統である音楽教育について感染対策を講じながら以前と同様に数々の行事に取り組んできた成果であると考え。教職員の19%が「どちらかといえばそう思わない」と回答した理由は、掃除について課題があるとの考えからであり、今後掃除指導の徹底に努めていく必要がある。</p>	

## 来年度の具体的な取組について

### ①いのちを大切にす心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

道徳教育や人権教育、全ての教育活動を通して、一人一人の子どもの気持ちをより大切にす指導や対応を心掛け、児童の自己肯定感や自己有用感を高めるような心を育む教育を目指す。不登校・不登校傾向や支援を必要とする児童に関しては、職員間で情報を共有し、校内支援委員会やケース会議等で組織で取組み、来年度もSCやSSW、関係機関と適切に連携しながら児童及び家庭の支援を行っていく。

### ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

校内研修を通して、問いと対話、カリキュラムマネジメント、ICTの有効活用等の研究を進め、教員の授業力向上や授業改善を行っていく。また、学力検査については、結果分析、課題の対応策の検討、学年の実態に応じた取組み等を行い、PDCAサイクルで更なる学力の向上を目指す。

### ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

いじめや不登校などに対しては、支援朝会での情報共有、校内支援委員会での迅速できめ細やかな対応、関係諸機関との連携等取組みを継続し、組織で対応する。特別支援教育については、今後も学級通信や学級懇談会、学校ホームページなどを活用し家庭や地域へ積極的な啓発を推進する。

### ④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

月1回の安全点検の充実を図るとともに、委員会等の取組みを通して校内の事故防止に努めていく。通学路の安全確保や自転車の安全な乗り方、公園の正しい使い方に関しては、地域の自治会、防犯協会、交通安全協議会、子ども会、PTA等と連携しながら推進していく。

### ⑤ 本校の教育

あいさつや掃除については、委員会や学校全体での取組みを進めるとともに、あいさつや掃除の大切さについて気付けるよう道徳や学級活動において実践していく。また、令和5年度本校は創立150周年を迎える。校歌の歌詞に貫かれるなでしこ精神の継承や先輩たちが築いてきた歴史や伝統を再確認し、子ども一人一人が音楽を通して豊かな心や穏やかな心を育み、地域への誇りや愛着をもちながら成長し続けていけるような機会としたい。

## 学校関係者評価

○ 児童のあいさつについては、先生方の捉えと違い保護者や地域の人たちからすればよく挨拶をしている実感がある。先生達のご指導のお陰だと思う。

○ 子どもたちの会話の中でタブレットの活用と並行して、インターネットの危険性（SNSやゲーム、動画配信等）についても学習してほしい。楽しく使うのはいいことであるが、情報モラルについて保護者と児童と一緒に学べる講演会等を年に一回程度設けてほしい。

○ 今年度の学校評価で回答の選択肢に「わからない」が入っており、その割合が多いうちに見受けられるが、否定的であったり不満があったりするわけではなく、情報がなく知らないことによる「わからない」の意味で回答される場合が多いのではないか。コロナ禍になり学校に行く機会も減ってしまい、「わからない」ことが増えていることも一因だと思う。対策として、紙媒体によるお知らせや学級通信だけでなく、学校ホームページやなでしこメール等を利用して周知することも今後検討してもよいのではないか。